

来週の「売り物記事」はこれ

2019年5月24日号

毎日新聞東京本社 編集編成局・販促宣伝部

車椅子はどこへでも

情報共有アプリ考案の難病女性

26日(日)



ストーリー

車椅子利用者の織田友理子さん(39)は、街中にある施設や道路の段差やスロープなどのバリアフリーに関する情報を、多くの人で共有できるスマートフォン用アプリで考案し、普及に取り組んでいます。体の筋肉が徐々に萎縮する難病を患っているが、活動のきっかけは、自分の子どもを海に連れていきたいという願いでした。バリアフリーに力を注ぐ彼女の熱意に迫ります。



選手村マンションは「買い」か

夕刊特集ワイド 27日(月)

2020年東京五輪の選手村を大会終了後に、改築して分譲するマンションの販売が7月末から始まります。東京都中央区晴海に立地し、銀座まで2~3キロと都心に近接しています。海に囲まれているため眺めが良く、専有面積も広め。モデルルームは連日、大混雑しています。しかし、いざ購入することを想定してみると、課題も。このマンションは「買い」か否かを不動産の専門家に直撃しました。

論点「日米首脳会談の成果」

オピニオン面 28日(火)

「令和」改元後初の国賓として来日したトランプ米大統領と安倍晋三首相が27日、首脳会談に臨みます。対米貿易黒字の削減を迫るトランプ氏との通商交渉や、北朝鮮の核開発・拉致問題で日本がどれだけ成果を挙げられるかが焦点。国賓待遇や大相撲観戦などで同氏との「蜜月」ぶりをアピールする首相の思惑や米国側の反応も併せて、3人の識者に論じてもらいます。

住宅補修、安易な契約にご注意

くらしナビ面 28日(火)

毎年のように地震や台風などの被害が起きる日本。自然災害で住宅が損壊すると、その後の補修や保険請求でトラブルになることも少なくありません。「保険代行を名乗る業者の口車には乗らない」「補修を急いで口頭で契約すると、後に問題になりやすい」——。昨年6月の大阪北部地震で被災者の電話相談に当たった弁護士らに、実例に基づいたアドバイスを聞きました。

日本脳炎と予防接種を考える

くらしナビ面 29日(水)

蚊を媒介してウイルスに感染すると死に至ることもある「日本脳炎」。感染者の100~1,000人に1人に割合で発症します。昨年は統計開始以来、初めて感染者がゼロになりました。しかし、ウイルスを持っている豚は依然として存在していて油断は禁物です。日本脳炎という病気と予防接種の大切さを今一度考えます。

「みんなのごみ」食品ロス

環境面 29日(水)

まだ食べられる食品がごみになってしまう「食品ロス」が社会問題化し、24日に食品ロス削減推進法が成立しました。こうした中、飲食や食品の業界全体で対策が急ピッチで進んでいます。一方、大阪市では4月、「賞味期限」を過ぎた商品を販売する店舗がオープンしました。「ブランドイメージが傷つく」と販売を敬遠する企業ばかりですが、食の安全に敏感な消費者の「意識改革」に一石を投じた形になっています。



論点「性犯罪厳罰化の課題」

オピニオン面 1日(土)

2017年夏、110年ぶりに性犯罪が厳罰化され、「強制性交等罪」などが施行されました。しかし、実際の裁判では無罪判決が相次ぎ、性暴力被害者団体は「同意のない性交を性犯罪とすべき」などと刑法の見直しを求めています。刑法の見直しは必要かどうか、専門家の意見を聞きました。

就職活動、企業の面接解禁

経済部 2日(日)

2020年春に卒業を予定する大学生らの就職活動は6月1日、企業の採用選考が解禁されます。3月1日の会社説明会解禁で本格的に始まった就活は、いよいよ大詰めを迎えます。ただ、こうした経団連の指針に基づく採用日程は形骸化しており、このルールを経団連が定めるのは今回が最後となります。就活に挑んでいる学生の声も交えて、現状を探ります。